

日本生涯スポーツ学会 第21回大会

東京オリ・パラ2020競技大会の生涯スポーツへのレガシー
—する・みる・ささえるスポーツへの北からのメッセージ—

2019年
期日▶ 8月29日◆～30日◆
会場▶ 北翔大学

日本生涯スポーツ学会第21回大会 大会プログラム・抄録集

期	日	2019年8月29日（木）～8月30日（金）
会	場	北翔大学（北海道江別市）、北翔大学札幌円山キャンパス（札幌市）
主	催	日本生涯スポーツ学会
運	営	日本生涯スポーツ学会第21回大会実行委員会
後	援	北海道教育委員会 札幌市教育委員会 江別市教育委員会
協	力	公益財団法人 アイヌ民族文化財団

（順不同）

大会名誉会長 山谷敬三郎

大会会長 山口 泰雄

<実行委員会>

委員長 川西 正志

副委員長 佐々木浩子、竹田 唯史、増山 尚美

委員 小田 史郎、小坂井留美、畝中 智志、黒田 裕太、永谷 稔、
横山 茜理、吉田 真、花井 篤子、石澤 伸弘、関 朋昭、
松岡 小春

事務局連絡先：

日本生涯スポーツ学会第21回大会事務局

北翔大学 生涯スポーツ学部 横山研究室

〒069-8511 江別市文京台23番地

Email hokusho.lifelong.sport2019@gmail.com

FAX 011-387-3927

協賛企業・団体

味の素株式会社
有限会社 市村出版
財団法人 江別市スポーツ振興財団
大阪体育大学
一般財団法人 さっぽろ健康スポーツ財団
セノー株式会社
ヘルスグリッド株式会社
北翔大学
公益財団法人 健康・体力づくり事業財団

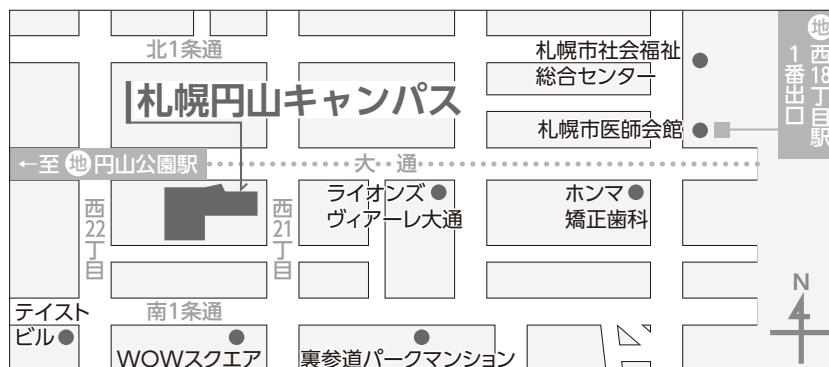
(順不同)

目 次

会場案内図.....	1
親睦会会場案内図.....	3
大会日程表.....	4
基調講演.....	6
シンポジウム.....	7
よさこい.....	12
学会大会参加について.....	13
研究発表について.....	15
プログラム.....	18
発表抄録	
若手研究発表.....	25
ポスター発表.....	35
口頭発表Ⅰ（一般口頭発表）.....	71
口頭発表Ⅱ（一般口頭発表）.....	97

会場案内図

8月29日（木） 会場：札幌円山キャンパス 会場案内図



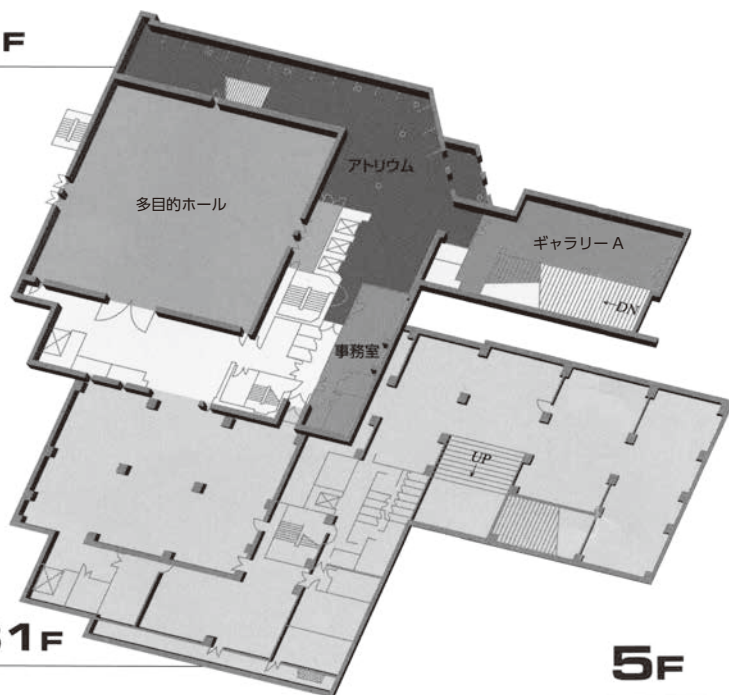
ACCESS

〒064-0801

北海道札幌市中央区南1条西22丁目1番1号

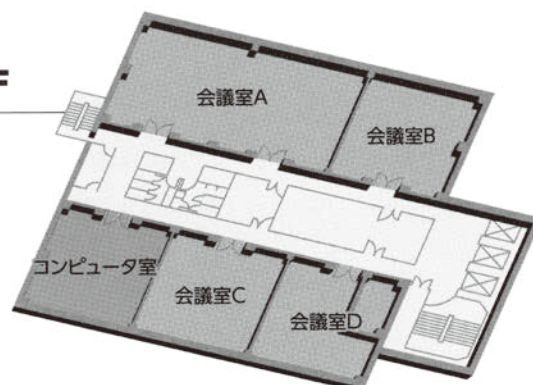
地下鉄東西線西18丁目駅1番出口徒歩7分

1F

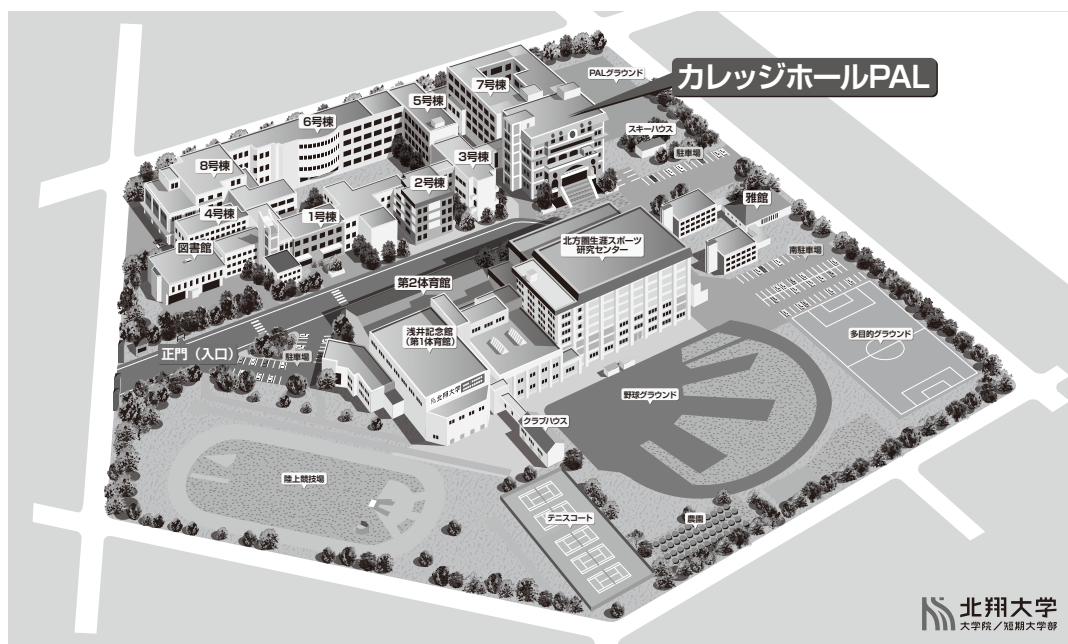


B1F

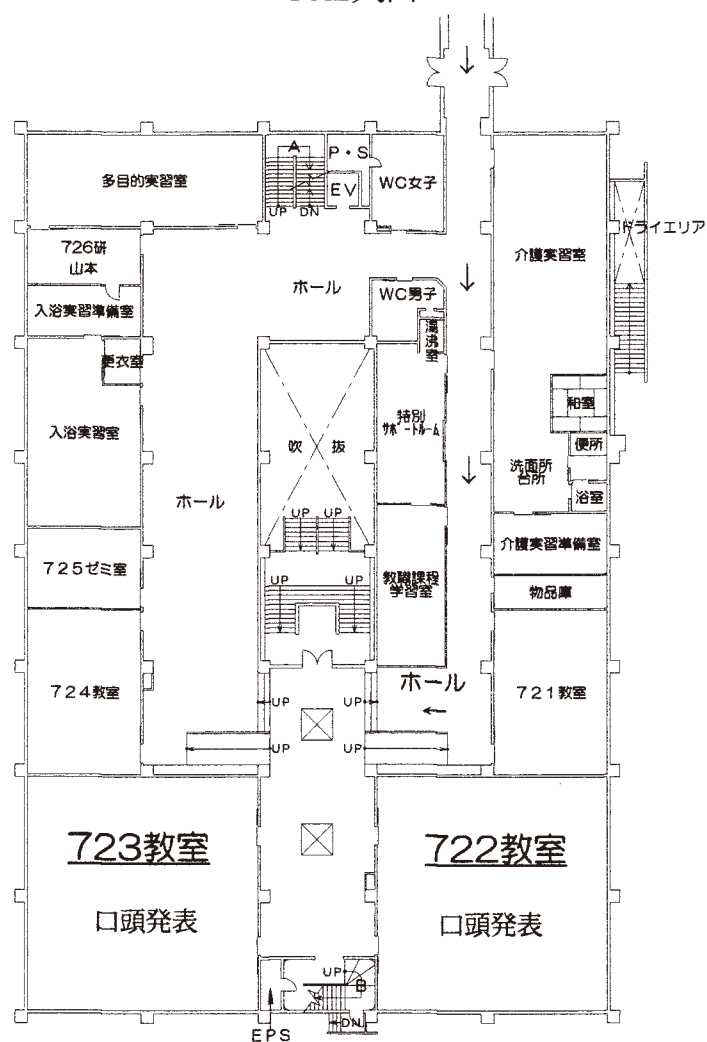
5F



8月30日（金） 会場：北翔大学 会場案内図



PAL入口



親睦会会場案内図

日時：2019年8月29日（木）19:00～

店名：北海道ビール園

住所：北海道札幌市中央区南3条西3丁目 Gダイニング9F

TEL：011-222-5550（HP：<https://hokkaido-b.owst.jp/>）

＊当日参加ご希望の方は、実行委員までお申し出ください。



【地図】



- ・地下鉄南北線「すすきの駅」徒歩3分
- ・地下鉄南北東豊線「豊水すすきの駅」徒歩5分
- ・地下鉄東西線・南北線・東豊線「大通駅」徒歩8分

【周辺地図】

<Google map>



大会日程表 第1日目 8月29日(木)

札幌円山キャンパス

	第1会場	第2会場	第3会場
1F アトリウム	多目的ホール	ギャラリーB	5F 会議室A

8:00	受付			
9:00	開会式 アイヌ古式舞踊			
9:30		基調講演		
10:00				
10:30		シンポジウム		
12:30		総会		
13:15	昼 食			味の素ランチョン セミナー カラダづくりのカギは 最適バランスのアミノ酸！
14:15		若手研究発表		
15:15			ポスター発表	
16:00 16:15				
17:00				
19:00	懇 親 会 (北海道ビール園)			
21:00				

大会日程表 第2日目 8月30日 (金)

北翔大学

第1会場	第2会場	第3会場
PAL 1F 722教室	PAL 1F 723教室	スボル1 F ホール

7 : 30			モーニングエクササイズ ポスチュアウォーキング KIMIKO
8 : 00	受 付		
8 : 30			
9 : 00	□頭発表Ⅰ		
12 : 00	よさこい演舞		
12 : 15	昼 食 (学食 12 : 15 ~ 13 : 15 PAL 4階)		
13 : 15	□頭発表Ⅱ		
14 : 15			閉 会 式
15 : 00			

基調講演 8月29日 (木)

9:30～10:30 (多目的ホール)

司会：花 井 篤 子 (北翔大学 教授)

通訳：井 出 幸二郎 (北翔大学 教授)

The Expectation on Legacy for Lifelong Sport of 2020 Tokyo Olympics and Paralympics Games- Case of Taiwan Experience on Sport for All Promotion



Kao, Chin-Hsung (MBA, Ph. D)

Director General

Sports Administration, Ministry of Education, ROC (Taiwan)

Abstract

In order to create active societies, environments, people and systems, Taiwan government cultivate healthy, sport-loving, and happy public in line with the “WHO global action plan on physical activity and health 2018-2030”. Physical strength is national strength. The most fundamental way to improve physical fitness is developing the habit of regular exercise, and maintaining a healthy lifestyle. The annual exercise survey shows that the regular exercise population increased year by year. According to the survey of regular exercise population, it reaches a record high (33.5%), and the non-exercise population has a trend of decreasing (16.9%) in 2018. The factors of non-exercise include no time, work too tired, lazy, and poor health condition. Sports Administration (SA), Ministry of Education (MOE) proposes the pull policies to support Sport for All and push policies to eliminate constrains. The total budget for the policies is nearly 100 million US dollars for 23 million citizen and residents in 2018. There are 6 major programs for pull policy such as LOHAS program in various ethnic groups, information dissemination, national events promotion, national sports games, international sports championships, sport venues improvement. The push policies include physical activity after class by SH150 program and promote sports enterprise certification and employment of sports instructors. Since 1998, Taiwan government has been devoting public policies of Sport for All to keep creating a more sporty, healthy, and vibrant society. The positive impacts of hosting international mega sport events in Taiwan are significant. 2009 Taipei Deaflympic Games, 2009 Kaohsiung World Game, and 2017 Taipei Universiade not only improved athletic performance, but also aroused the entire Taiwan to be happily involved and watch the games on site or on media. 2018 Jakarta Asian Games brought even more excitement and honor for Taiwan. Now, 2020 Tokyo Olympics has been a fashion topic around Taiwan. Some positive impacts of 2020 Tokyo Olympics upon Sport for All promotion are highly expected.

Keywords: regular exercise, sport events, 2017 Taipei Universiade, championship, policy, SH 150

シンポジウム 8月29日(木)

10:30～12:30 (多目的ホール)

司会：石 澤 伸 弘 (北海道教育大学札幌校 教授)

司会：永 谷 稔 (北翔大学 教授)

指定討論者：川 西 正 志 (北翔大学 特任教授)

東京オリ・パラ2020競技大会の生涯スポーツへのレガシー

—する・みる・ささえるスポーツへの北からのメッセージ—

パネリスト

石 崎 琴 美 氏 (社会医療法人 松田整形外科記念病院)

藤 野 功 氏 (株式会社 北海道日本ハムファイターズ)

伊 端 隆 康 氏 (総合型地域スポーツクラブ全国協議会 幹事長)



「する」スポーツの立場から —夢と感動を与えるスポーツの魅力—

石 崎 琴 美

(社会医療法人 松田整形外科記念病院)

体育の授業は苦手、運動会はどうにかして休みたいと思っていた自分が小学校の部活動を選択する時に友人の誘いを断れず、バレーボールに入部したことがきっかけでスポーツの世界に飛び込むことになった。出来ないことが少しずつ出来るようになる喜びや仲間と共に同じ目標をクリアしたときの達成感があつた。毎日練習しても上達しないストレスやスランプ、それを乗り越えようとする向上心、そして継続するということの大切さなど、振り返ってみるとスポーツが日々の充実感を与えてくれたとともに私を形作るものとなっている。山あり谷ありのスポーツライフの中でも競技と真正面から真剣に向き合ってきたのがカーリングである。この競技と出会ったことで本当に多くのことを学んだ。その中でも大切なキーワードとなっているのが「目標設定」「自分を知る」「相手を知る」「受け止め、起き上がる力」で競技力向上のためだけではなく、その考え方やメンタルは日々の生活や仕事の現場で役立つものでもある。まだまだカーリングはマイナースポーツではあるが、生涯スポーツとして魅力的であり、プレーするのも楽しく、作戦を考えながら観るのも楽しいスポーツである。競技中に選手がピンマイクをつけ、テレビ観戦している人が選手間のリアルな会話を生で聞ける珍しいスポーツでもある。この競技をより多くの方に知ってもらう為には国民の関心が高いオリンピックに日本チームが継続して出続けることが必要だと思っている。いよいよ来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックでは最高の舞台でプレーする選手にも、それを応援する私達にもたくさんの笑顔が訪れ、スポーツの持つ素晴らしい夢と感動を体感するとともに、その後の日々の生活に少しの刺激ややる気を齎してくれるような、そんなオリンピックになることを願ってやまない。



「みるスポーツの立場から」 —ファイターズの地域密着経営—

藤 野 功

(株式会社北海道日本ハムファイターズ)

北海道日本ハムファイターズは地域密着球団として2004年に北海道に誕生して以来、着実に観客動員数を伸ばし、現在では年間約200万人の動員を獲得しています。北海道という地域に「みるスポーツ」としての魅力を提供するという点においては一定の役割を果たしています。その事業の根幹は企業理念として「Sports Community」を掲げ、地域社会の一員としてスポーツと生活が近くにあり心と身体を健康を育むコミュニティの実現を目指してきたという点にあります。そのスコープは、「スポーツ環境」だけでなく「生活/地域環境」などの幅広い領域に及び、ファイターズの持てる資源やノウハウを活用し次世代を担う青少年の育成、健やかな社会の実現のため、「スポーツコミュニティ活動（SC活動）」を推進しています。

このような活動は単なる「CSR」という観点ではなく「CSV（Creating Shared Value）」の観点を持ち、事業経営と社会問題の解決を結びつけるかという視座で捕らえることが重要だと認識をしています。本発表では球団のこれまで実践してきた事例を紹介しながら、ファイターズの目指すべき経営についてご紹介いたします。

また、東京オリ・パラ2020にて更なる盛り上がりが予想されるスポーツツーリズムについても今後の事業拡大に欠かせない要素だと考えています。ファイターズでは主に台湾でのマーケティング活動、来場誘引に注力をしており、本事業についても実例を交え、ご紹介をさせていただきます。



「ささえるスポーツの立場から」 —地域スポーツ環境の整備への更なる期待—

伊 端 隆 康

(総合型地域スポーツクラブ全国協議会幹事長)

本発表では、2020オリ・パラ後の地域でのスポーツ振興のための環境整備と課題について、1. 地域スポーツが継続発展する条件、2. 総合型クラブの現実と展望、3. 学校運動部活動のあり方、4. 総合型クラブの登録認証制度の取り組みについて報告する。まず、地域スポーツが根付くための最大の条件は行政との連携が重要である。経営が安定している総合型クラブのほとんどは行政との関係が良好であり、例えば、スポーツ施設の管理やスポーツ事業がクラブに委託されている。そうした信頼関係を築く為に、キーワードはヒトである。スポーツ教室を開くだけでなく、健康増進、社会福祉、学校教育など多様な地域課題の解決につながる取り組みを率先し行っている総合型クラブは地域住民に認知度が高い。模範的クラブのリーダーの多くは本業を持ちつつも、その有能な資質をクラブ運営にも生かしている。学校運動部活動と地域スポーツの一体化には多くのハードルがある。成功の条件は「行政が前向きに取り組む」「指導者（顧問）にきちんと賃金を支払う」「地域の関係者が積極的に関わる意思を持つ」ことである。第2期スポーツ基本計画で示された総合型クラブの登録・認証制度の大きな狙いは、クラブが行政との連携を深めることにある。クラブと行政の良好な関係の下、地域の課題解決に役立つ取り組みに関わりやすくなり、ソフト事業などの業務を受けやすくなる環境が整う。そして、何よりも今後のクラブの登録・認証制度が導入されることで組織のガバナンスの確立も期待される。2020オリ・パラ後に、日本の地域スポーツ環境の更なる量的・質的充実を期待する。

モーニングエクササイズ ポスチュアウォーキング 8月30日（金）

7：30～8：30（スボル1F ホール）



プロフィール

KIMIKO

株式会社 THE POSTURE 代表取締役
一般社団法人ポスチュアウォーキング協会 理事長

よさこい演舞 8月30日（金）

12:00～12:15（PAL玄関前）

私たちは6月に行われるYOSAKOIソーラン祭りと10月に仙台市で行われるみちのくYOSAKOI祭りを中心に日々練習しています。今年のYOSAKOIソーラン祭りでは、1次審査員賞（ブロック3位）と、準U-40大賞を頂くことができました。

人数が少ないチームですが、団結力を武器にこれからも頑張っていきます！



学会大会参加について

1. 受 付

受付は下記のとおり行います。受付で、①参加者証、②参加費等の領収書をお受け取りください。参加者証は、大会期間中必ず着用の上、ご参加ください。

期 日	開始時間	場 所
8月29日（木）	8：00	札幌円山キャンパス 1F エレベーター付近
8月30日（金）	8：30	北翔大学 PAL 1F 722・723教室前

2. 学会員の方へのお願い

学会員で下記に示す関係費未納の方は、受付にてお支払いください。

※共同研究者は、大会参加（出席）の有無にかかわらず、参加費を納入してください。

※学部学生の発表を伴わない大会参加の参加費は無料となっております。但し、大会プログラム・抄録集は含まれません。

参加費	個人会員	学生会員
大会参加費	7,000円 (院生を含む)	3,000円
懇親会費	5,000円	5,000円

学会費（※学会事務局にお支払いください。）		
年会費	5,000円 (院生を含む)	2,000円
入会金	3,000円 (院生を含む)	免除

3. 非会員（一般参加）の方へのお願い

非会員（一般参加）の方は、受付にて下記に示す各関係費をお支払いください。学会への入会を希望される方は、受付にてその旨をお申し出ください。

参加費	一 般
大会参加費	3,000円
懇親会費	5,000円

なお、発表される方は、「学会への入会」と「大会参加申込み」の手続きが必要です。また、共同研究者の方は、「大会参加申込み」（参加費）が必要です。

4. その他

休憩所	札幌円山キャンパス 会議室B／北翔大学PAL 721教室
昼食	札幌円山キャンパス 会議室B／北翔大学PAL 4階食堂

【健康運動指導士および健康運動実践指導者の単位受付（認定番号）】

1. 健康運動指導士および健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として講義3単位が認められます。（参加申込時にその旨お伝えください。あわせて参加費の納入をお願いします。）
2. 当日受付にて、申請説明および手続きを行い、受講証明書を発行いたします。資格を所有していて学会大会に参加される方は、**必ず健康運動指導士証または健康運動実践指導者証をご持参**ください。

研究発表について

口頭発表のみなさまへ

1. 準 備

- ・演題番号を「口頭発表演題一覧」で、必ずご確認ください。
- ・発表資料は、50部用意してください。また資料上部に「演題番号、演題、演者氏名、所属」を明記してください。
- ・PC（Windows10）、プロジェクター、スクリーン、およびポインターは大会実行委員会で準備します。
- ・パワーポイント（MS-Office 2017）は、Windows版をご使用ください。
（Mac版は不可：互換性を確認してください）。
- ・受付に提出していただくプレゼンテーション用データファイル名は、下記の通りお願いします。
「演題番号（半角）＋演者氏名（全角漢字）」【例：「OA-1-○ 北翔太郎」】
USBメモリ等に記録・保存の上、ご持参ください。

2. 当日の受付

- ・発表当日は、各セッション開始1時間前（30日は8時30分）までに、受付にてプレゼンテーション用データファイルの受け渡しをお願い致します。
また、その場で動作確認をお願い致します。
（※早めの来場をお願い致します。）
- ・プレゼンテーション用データファイルの動作確認終了後、受付をお済ませください。
- ・発表資料は、受付をされる際にご提出ください。

3. 発 表

- ・発表者ご自身の発表セッション開始時（座長交代時）には、演者控席で待機ください。
- ・発表時間は10分、質疑応答は5分です。
※発表開始後8分（終了2分前の合図）にベルを1回、10分（発表終了後）にベルを2回、質疑応答終了時にベルを3回、タイムキーパー（会場スタッフ）が鳴らします。

4. その他

- ・配付資料等のコピーは、原則、お断りいたします。
- ・不明な点などありましたら、大会実行委員会（スタッフ）にお尋ねください。

ポスター発表のみなさまへ

1. 準 備

- ・演題番号を「ポスター発表演題一覧」で必ずご確認ください。
- ・ポスターのサイズは、幅約90cm×縦約120cm以内で作成をお願いします。
またポスターは画鋏で貼り付けます（画鋏は大会実行委員会で用意します）。
- ・ポスターの最上部に、「演題番号、演題、演者氏名、共同研究者名、所属」を表記してください。

2. 当日の受付

- ・ポスター発表は1日目の8月29日（木）15：15～札幌円山キャンパスギャラリー Bにて行います。
- ・ポスターの貼り付けは、8月29日（木）14：30までに指定されたパネルに、ご自身でお貼りください。
なお、補助が必要な場合、会場にスタッフがいますのでお申し出ください。

3. 発 表

- ・発表者はポスター発表の開始時刻に、ご自身のポスターの前で待機してください。
- ・進行の指示に従って、順番に発表していただきます。
- ・発表時間は3分です。
- ・プログラムスケジュールの都合上、個別ディスカッションの時間は僅かとなっております。
直接、発表者に質問したいとする方もおられると思います。発表後も可能な間、ご自身のポスター前に待機いただけますよう、ご協力をお願いします。
- ・発表後のポスターは、17：30までに必ずご自身で撤収お願い致します。

4. その他

- ・不明な点などありましたら、大会実行委員会（スタッフ）にお尋ねください。

座長のみなさまへ

第21回大会の口頭発表ならびにポスター発表の座長をお引き受けいただきありがとうございます。

つきましては、以下の点にご留意いただき、各セッションの進行をお願い致します。

1. 口頭発表

- ・学会当日の受付にて、座長受付の手続きも同時に取りさせていただきます。
- ・担当いただくセッションの開始5分前までに、発表会場へお越しください。
- ・発表時間は10分、質疑応答は5分です。

※発表開始後8分（終了2分前の合図）にベルを1回、10分（発表終了時）にベルを2回、質疑応答終了時にベルを3回、タイムキーパー（会場スタッフ）が鳴らします。

※発表時間は、厳守いただくようご協力をお願いします。特に、活発なディスカッションを推奨しています。発表時間（持ち時間）終了前に、質疑等が終わることのないようにご配慮ください。

2. ポスター発表

- ・学会当日の受付にて、座長の受付手続きも同時に取りさせていただきます。
 - ・ポスター発表の開始5分前までに、発表会場へお越しください。
 - ・発表時間は3分です。
- ※発表終了時にベルを2回、タイムキーパー（会場スタッフ）が鳴らします。
- ・進行は、プログラム順をお願い致します。
- ※発表時間は、厳守いただくようご協力をお願いします。
- ※特に、発表時間が余るようであれば、時間内で質疑等をお受けください。

若手研究発表 8月29日(木)

第一会場（北翔大学 札幌円山キャンパス 多目的ホール）座長：工 藤 康 宏（順天堂大学）

14:15-14:30	Y-1	市民マラソン大会における「県外ランナー」の再参加を促す要因 ー“潜在化”したツーリズムの検討を視野にー	久湊 太雅 (富山大学大学院生)
14:30-14:45	Y-2	賛助会員制度からみる総合型地域スポーツクラブの今日的課題 ー地域コミュニティ形成に寄与する「企業との連携」に着目してー	村瀬 仁志 (富山大学大学院生)
14:45-15:00	Y-3	オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア関心度 ー2020年オリンピック・パラリンピック合宿地利用者に着目してー	清宮 孝文 (日本体育大学大学院生)
15:00-15:15	Y-4	国際スポーツ大会の開催準備期における組織間ネットワーク形成に関する研究 ーワールドマスターズゲームズ2021関西を対象としてー	松崎 淳 (神戸大学大学院生)

ポスター発表 8月29日(木)

第二会場（北翔大学 札幌円山キャンパス ギャラリーB）座長：前 田 博 子（鹿屋体育大学）

15:15-15:18	PA-1	全国中学校体育大会のスポーツツーリズムとしての可能性を探る ―観戦者調査からの考察―	斎藤 修也 (東海大学学部生)
15:18-15:21	PA-2	全国中学校体育大会における初競技役員に関する研究 ―大会評価が語るスポーツボランティア経験の重要性―	黒川 由登 (東海大学学部生)
15:21-15:24	PA-3	カーブを観戦する県外者のセグメンテーション研究 ―広島に来てどこを回遊するのか―	石井 大貴 (広島経済大学学部生)
15:24-15:27	PA-4	テニス・マダムは何を求めているのか？ ―ジャパンウイメンズオープン大会来場者の分析―	箕浦 和也 (広島経済大学学部生)
15:27-15:30	PA-5	歩くプロゴルフ観戦者は健康なのか？ ―歩数を媒介とした行動意図と健康関連要因に着目して―	林田まゆみ (広島経済大学学部生)
15:30-15:50	自由討議 ①		

座長：大 勝 志津穂（愛知東邦大学）

15:50-15:53	PA-6	少年サッカーにおけるスポーツペアレンティングと選手の有能感に関する研究	荒木 拓海 (和歌山大学学部生)
15:53-15:56	PA-7	生涯スポーツ競技者における運動志向性とレジリエンスの関連性についての研究 ―個人種目と団体種目の相違に着目して―	原田 一平 (和歌山大学学部生)
15:56-15:59	PA-8	集団効力感とチームパフォーマンスの関連性および集団効力感の性差に関する研究 ―高校伊那駅伝大会参加者に着目して―	宮下 凌 (和歌山大学学部生)
15:59-16:02	PA-9	日本的スポーツ価値志向間における柔道選手の動機づけの比較検証	森 亮貴 (和歌山大学学部生)
16:02-16:05	PA-10	男子との野球経験の有無による女子硬式野球選手の自己効力感と集団効力感の類似・相違点について	森脇 瑠香 (和歌山大学学部生)
16:05-16:08	PA-11	ファーム戦観戦者の一軍試合観戦を促す要因	稲田 友 (和歌山大学学部生)
16:08-16:28	自由討議 ②		

座長：船 越 達 也（大阪国際大学）

16:28-16:31	PA-12	神戸マラソンにおけるインバウンドツーリストのPush要因 ―台湾人ランナーと他国のランナーの比較を通じて―	宮本 昂英 (流通科学大学学部生)
16:31-16:34	PA-13	卓球競技者におけるシューズの購買決定要因に関する研究 ―ミズノ、アシックス、卓球メーカーに着目して―	八幡 将人 (流通科学大学学部生)
16:34-16:37	PA-14	大学のイメージとシンボルマークのイメージに関する研究 ―流通科学大学の学生に着目して―	廣津 晴香 (流通科学大学学部生)
16:37-16:40	PA-15	プロスポーツチームのインターンシッププログラムに関する研究 ―BSBC参加者のビジネススキル、満足度、愛着、行動意図の関連性に着目して―	高雄 優壱 (流通科学大学学部生)
16:40-16:43	PA-16	中高年男性サッカー愛好者における仲間との交流とクラブへのコミットメント	熱田 航佑 (順天堂大学学部生)
16:43-16:46	PA-17	eスポーツに対するイメージについての基礎的検討	内田 遼介 (流通科学大学)
16:46-17:06	自由討議 ③		

懇 親 会 へ 移 動

ポスター発表 8月29日(木)

第二会場（北翔大学 札幌円山キャンパス ギャラリーB）座長：渡 辺 泰 弘（広島経済大学）

15:15-15:18	PB-1	Jリーグクラブにおけるスポーツボランティアに関する調査 ―募集と導入研修に着目して―	落合 宏則 (順天堂大学大学院生)
15:18-15:21	PB-2	マスターズスポーツ参加者のWMG2021関西への参加意欲に関連する要因 ―硬式野球競技に着目して―	山下 耕平 (神戸大学大学院生)
15:21-15:24	PB-3	国際生涯スポーツイベントの開催準備期における大会関連事業のプロセス評価 ―ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催地に着目して―	出戸 寿明 (神戸大学大学院生)
15:24-15:27	PB-4	スポーツイベントにおけるボランティア参加が活動主体者に及ぼす影響 ―マスターズ甲子園ボランティアのキャリアに着目して―	三浦 敬太 (神戸大学大学院生)
15:27-15:30	PB-5	訪日中国人スキーツアー観光客における感情評価理論の援用 ―理想感情と実際感情の比較に関する研究―	胡 戎 (和歌山大学大学院生)
15:30-15:33	PB-6	高校ラグビー選手のスポーツキャリアに関する研究 ―九州地区における競技レベルによる比較―	辺土名斉朝 (名桜大学大学院生)

15:33-15:50 自由討議 ①

座長：久保田 晃 生（東海大学）

15:50-15:53	PB-7	退職後のシニア男性のフィットネスクラブ入会に関する質的研究	足立名津美 (京都先端科学大学)
15:53-15:56	PB-8	アクアノルディックウォーキング用ツールの開発と応用	花井 篤子 (北翔大学)
15:56-15:59	PB-9	調査協力者Mは、いかにして中高年トレイルランナーとなったのか ―初心者トレイルランナーのFacebook投稿データの分析―	石盛 真徳 (追手門学院大学)
15:59-16:02	PB-10	スポーツにおける漢方薬の利用について	高上馬希重 (北海道医療大学)
16:02-16:05	PB-11	防災キャンプからの学び ―体調管理への昆虫食利用の可能性―	西岡ゆかり (大阪国際大学)
16:05-16:08	PB-12	サイクルスポーツイベント参加者の大会満足度と地域愛着 ―ツール・ド・おきなわ2018に着目して―	平野 貴也 (名桜大学)

16:08-16:28 自由討議 ②

座長：彦 次 佳（和歌山大学）

16:28-16:31	PB-13	過疎山間部におけるアウトドアビジネスの可能性 ―京都きづ川アクティビティフェスタの事例から―	横山 誠 (大阪国際大学)
16:31-16:34	PB-14	高齢者の集団的水中運動プログラムにおける運動強度について	松井 健 (追手門学院大学)
16:34-16:37	PB-15	木製スポーツフロアの危機 ―床板剥離の点検方法とメンテナンスの知識を共有する―	野川 春夫 (順天堂大学)
16:37-16:40	PB-16	VIPエリア観戦者の経験価値と満足度に関する研究 ―ガンバ大阪を事例として―	上代 圭子 (東京国際大学)
16:40-16:43	PB-17	知的障害者の生涯スポーツの萌芽期に関する研究 ―日本スペシャルオリンピックス委員会(JSOC)の全国大会に着目して―	田引 俊和 (北陸学院大学)

16:43-17:03 自由討議 ③

懇 親 会 へ 移 動

口頭発表 I (一般口頭発表) 8月30日 (金)

第一会場 (北翔大学PAL 7号棟 722教室)

座長：平 野 貴 也 (名桜大学)

9:00- 9:15	OA-1-1	ウインタースポーツ参加者における常連客化に関する質的研究 —小規模スキー場を事例として—	水野はるな (順天堂大学大学院生)
9:15- 9:30	OA-1-2	ウインタースポーツによる地域活性化の現状と課題 —北海道上川郡新得町の事例から—	石岡 元 (大阪体育大学大学院生)
9:30- 9:45	OA-1-3	新規ウインターリゾート事業における来場者の志向性 および動向に関する研究	船越 達也 (大阪国際大学)
9:45-10:00	OA-1-4	アーバンリゾートホテルをベースにしたスポーツプログラムのトレ ンド分析 —神戸市のアーバンリゾートホテルのケーススタディー	伊藤 克広 (兵庫県立大学)

座長：中 山 健 (大阪体育大学)

10:00-10:15	OA-1-5	国内ランニングイベントにおける外国人参加者把握状 況の経年変化	上杉 杏 (順天堂大学大学院生)
10:15-10:30	OA-1-6	トレイルランニングイベントにおける主催者のリスク要因 —グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて—	山口 志郎 (流通科学大学)
10:30-10:45	OA-1-7	マラソン大会とSDG s に関する研究 —山口県開催JAL 向津具マラソンのケースから—	西尾 建 (山口大学)
10:45-11:00	OA-1-8	大会満足度と生活満足度に関する研究 —マラソン大会参加者に着目して—	岡安 功 (広島経済大学)

座長：小 田 史 郎 (北翔大学)

11:00-11:15	OA-1-9	高齢者の運動・スポーツ参加における社会的支援と ソーシャルネットワーク	下水流将太 (鹿屋体育大学大学院生)
11:15-11:30	OA-1-10	中高年者における運動・スポーツ実施キャリアの実現要因に関する研究 —継続群・開始群・再開群との比較から—	松村 雄樹 (神戸大学大学院生)
11:30-11:45	OA-1-11	北海道の在宅高齢者における運動および社会活動実践 とQOLとの関連	竹越 麻子 (北翔大学大学院生)
11:45-12:00	OA-1-12	集合的効力感が高齢者の運動実施に対する自己効力感 に与える影響に関する研究	中山 健 (大阪体育大学)

第二会場 (北翔大学PAL 7号棟 723教室)

座長：北 村 尚 浩 (鹿屋体育大学)

9:00- 9:15	OB-1-1	運動・スポーツ習慣化事業に関する事例研究 —計画的行動理論に着目して—	高橋 享兵 (大阪体育大学大学院生)
9:15- 9:30	OB-1-2	我が国のスポーツ振興施策の策定過程について —第2期スポーツ基本計画に着目して—	舟木 泰世 (至学館大学)
9:30- 9:45	OB-1-3	Olympic Moves から考察するオリンピック・ムーブメントの課題 —各国と我が国の現状—	安光 達雄 (PCY,Ltd.)
9:45-10:00	OB-1-4	EUにおけるスポーツの統合・インクルージョン政策 を巡る	山口 泰雄 (流通科学大学)

第二会場（北翔大学PAL 7号棟 723教室）

座長：松 本 耕 二（広島経済大学）

10:00-10:15	OB-1-5	JリーグクラブのTwitterの活用方法とフォロワー数の関係性 ―ツイートの内容分析から―	河野 真輝 (大阪体育大学大学院生)
10:15-10:30	OB-1-6	フォトログゲイニング®における楽しさの評価尺度の開発	中井 聖 (大阪電気通信大学)
10:30-10:45	OB-1-7	麻雀に対するイメージに関する研究 ―マインドスポーツとしての普及・振興に向けて―	大山 佑太 (北海道教育大学)
10:45-11:00	OB-1-8	高校野球におけるサイン盗みに関する事例調査	谷所 慶 (関西大学)

座長：花 井 篤 子（北翔大学）

11:00-11:15	OB-1-9	ハムストリングス肉離れ再発予防のための筋力評価	小向 啓介 (北翔大学大学院生)
11:15-11:30	OB-1-10	客観的な測定による半年間の平均歩数と歩行環境との関連	宇野真里子 (東海大学大学院生)
11:30-11:45	OB-1-11	妊婦を対象とした身体活動研究の国内外比較 ―行動疫学による整理―	松下 宗洋 (東海大学)
11:45-12:00	OB-1-12	スポーツフロアにおけるささくれ発生について	工藤 康宏 (順天堂大学)

口頭発表Ⅱ（一般口頭発表） 8月30日（金）

第一会場（北翔大学PAL 7号棟 722教室）

座長：秋 吉 遼 子（東海大学）

13:15-13:30	OA-2-1	観戦型スポーツイベントの再参加意図における感情評価理論の援用 ―Bリーグ大阪エヴェッサの観戦者に着目して―	伊藤 央二 (和歌山大学)
13:30-13:45	OA-2-2	運動・スポーツ実施における同伴者の変化について ―スポーツライフに関する調査2008・2018の二次分析―	大勝志津穂 (愛知東邦大学)
13:45-14:00	OA-2-3	地域スポーツイベント参加者の再参加意図 ―KH Coderによるテキスト分析から―	北村 尚浩 (鹿屋体育大学)
14:00-14:15	OA-2-4	地域密着型を目指すプロスポーツの有機的連携に関する研究 ―地域住民の評価とコミットメントを指標に―	神野 賢治 (富山大学)

第二会場（北翔大学PAL 7号棟 723教室）

座長：伊 藤 克 広（兵庫県立大学）

13:15-13:30	OB-2-1	総合型地域スポーツクラブのエンパワーメント評価 ―総合型地域スポーツクラブ北海道ネット加盟クラブを対象として―	山田奈美江 (北翔大学大学院生)
13:30-13:45	OB-2-2	総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアに関する研究 ―クラブボランティアの属性と継続要因―	小田 美幸 (順天堂大学大学院生)
13:45-14:00	OB-2-3	気軽に運動・スポーツのできる場をどう作るのか ―平塚市における学校体育施設開放事業を事例に―	萩 裕美子 (東海大学)